

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200896		
法人名	株式会社 クリエイト		
事業所名	グループホーム 久慈浜	ユニット名	1F
所在地	〒319-1222 茨城県日立市久慈町3-4-14		
自己評価作成日	平成27年9月14日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870200896-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月12日	評価機関 決済日	平成28年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭菜園では利用者様が土を耕し、苗を植え、野菜を育てている。収穫した野菜を使用して職員が食事やおやつを提供している。
防災では年2回の消防総合訓練に加えて、地震・津波や洪水、放火、近隣の火災、夜間災害発生等、様々な想定で毎月訓練を実施している。
身体拘束を行なわないことはもちろん、「不適切なケア」についても定期的に職員全員で自分たちのケアを振り返り、より良い介護の実践ができるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の玄関に職員が手作りしたパッチワークの壁掛けを掲示し、椅子にも同様のクッションが置かれ、家庭的なぬくもりを感じる雰囲気となっている。
かつては石敷きであった事業所の庭を利用者の希望により花壇と利用者自ら耕した畑にし、利用者の希望で選んだカボチャやじゃがいも、苺の苗を植えて育て、その収穫が利用者の楽しみとなっている。
事業所の職員は男性が半数を占めており、職員の勤務調整をして利用者がかつて楽しんだ釣りに同行するなど、利用者の趣味を大切に支援している。
協力医療機関による訪問歯科診療で、毎週口腔ケアや治療を行うことにより、咀嚼ができなかった利用者が、刻み食を摂取できるようになるなど、食べる機能や食べる喜びを大切に支援している。
職員は毎年接遇研修を受け、利用者の名字に様をつけるなど、人格を尊重するよう心がけている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より事業所独自の理念3項目を作り、毎朝申し送り時、全員で唱和し、理念に沿ったケアを実践している。理念は事務室に掲示し常に意識できるようにしている	開設時に職員で話し合っ地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、一階事務室と二階の食堂に掲示している。 職員は毎朝の申し送り時に理念を唱和し、共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会の見学や地元のフェスティバルに参加したりお祭りに出かけている。小学校の町探検の授業で2年生が年1回訪問してくれる。近隣の飲食店や商店を利用し商店の店主と雑談を楽しみながら買い物をしている散歩中など日常的に近隣の住民と挨拶や会話を交わし、不審者情報など共有している	利用者と職員と一緒に散歩に出かけ、地域住民と挨拶を交わしたり、野菜のお裾分を頂くほか、近隣にある小学校の運動会に出向いて競技に参加したり、地域の祭りや図書館、雑貨屋、洋品店などを利用し、日常的に地域と交流している。 小学生の町探検学習やマジック、囲碁などのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練時、近隣住民にも声をかけ、いっしょに消火器の取扱い方法を消防署員から学んだり、事業所内で行なう応急手当救命講習に参加していただき、共に学ぶ機会を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回（偶数月の第3金曜日）に開催。議事録を作成し、職員全員に周知し必要に応じて会議等で話し合いを持つ。議事録はいつでも誰でも見られるように玄関内に掲示し、ご家族へも配布している	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、地域住民、近隣のグループホームの管理者で、2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や事業所の活動を報告しているほか、地域で開催される催しの情報を得たり、年1回消防署員による救急救命講習や他グループホームでの取り組みなどを紹介してもらい、運営に反映している。 家族等とは玄関の施錠に関する意見交換が行われるなど、自由に意見を言える場となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席してもらっている。 毎月、市社協の介護相談員が来所される 市の事業所懇談会や連絡会に参加し情報交換、意見交換をしている。市の担当課へ報告、相談などを行ない協力を得ている	管理者は市の介護保険課主催の事業所懇談会に参加して意見交換を行うほか、市担当者に直接出向いたり、電話などで利用状況などを相談している。 市担当者からは、市主催の認知症やレクリエーションに関する研修案内の情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や、身体拘束防止のポスターを掲示し、職員は身体拘束を市内ケアに努めている。玄関の施錠に関しては、利用者の離脱がありご家族の了承のもと施錠していることが多いが、職員会議で話し合いを持ち状況に応じ開錠する日を増やしている。利用者様が外出したい時はいつでもできる	身体拘束防止ポスターを事業室に掲示し、マニュアルを作成して内部研修や全体会議でその内容や弊害について話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。 やむを得ず身体拘束をする場合に備えて説明書や同意書はあるが、経過観察記録や再検討記録などの書類を整えるまでには至っていない。 帰宅願望の強い利用者がいるため、家族等の承諾を得て玄関は施錠しているが、利用者が外出したい時にはいつでも解錠して職員が付き添うとともに、なるべく解錠する日を増やす取り組みをしている。	やむを得ず身体拘束をする場合に備え、経過観察記録や再検討記録を作成することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や虐待防止のポスターを掲示し職員の意識付けをしている。利用者様ひとりひとりのケアが虐待や不適切ケアになっていないか定期的にケアの見直しをしている。また職員会議で虐待について話し合いを持ち、虐待が起こらないよう注意し合える環境作りをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について、研修などで勉強する機会を持っている 成年後見制度の手続きの支援を行ない、利用している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、理解が得られるよう、十分な話し合いを行ない、契約書や同意書を取り交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、家族会等でご家族の意見要望をお聞きし、反映している。利用者様は、介護相談員の訪問時に話を聞いてもらっている。利用者様から意見、相談等があったときは職員間のミーティングで話し合い対策を立てる。玄関に意見箱を設置している	玄関に意見箱を設置しているほか、運営推進会議や面会時、年1回開催される家族会などで意見や要望を聴く機会を設けているが、アンケートを実施するまでには至っていない。 「運動の機会を増やして欲しい」との要望を受け、外出の回数を増やすなど、出た意見等は運営に反映している。 毎月市の介護相談員を受け入れており、利用者のお話を聴く機会となっている。	利用者・家族等が普段言いにくい意見や要望を吸い上げるために、事業所独自の無記名アンケートを実施し、運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や毎日の朝礼、週間報告書等で提案する機会を設け、反映させている	月1回開催する職員会議時や毎朝の朝礼時に職員の意見を聞いているほか、職員一人ひとりが記入して提出する「週間報告書」を通して意見や提案を聞く機会をつくっている。 レクリエーションの内容や外出計画、手作りおやつ等の提案、勤務体制や夜勤の希望など、出た意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接や、週間報告書等で把握し、意見を聞き整備に努めている。研修受講、報告書提出状況等が賞与に反映されたり、各種資格が取得できるよう環境を整えている。業務を分担、調整し、残業なく働けるようにしている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修係により毎月施設内研修を実施している。施設外研修の案内を職員に提示し、希望する研修に参加できるよう調整している 応急手当救命講習は全員が受講している 新人職員には担当者が付き研修項目に沿って日常業務の中で指導が行われ、相談もできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームと運営推進会議の委員として行き来している。 お花見、花火大会、応急手当講習等で他グループホームと交流している。 市の事業者懇談会等で、市内の他事業所と意見交換している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、入居時にも十分話を伺い信頼関係が築けるよう努めている。入居時の不安を受け止め、利用者様同士の関係を調整する。受け持ちを中心に積極的に関わり、信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、入居時にも話を十分伺い、要望を聞いている。信頼関係が築けるよう努め、ご家族の希望も介護計画に反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、情報を収集しその時の状況を見極めてサービスを行なう		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理・下膳・片付け、洗濯物干し・洗濯物たたみなどできるだけ利用者 と職員が共同で行っている。台所に立てなくなった利用者様にも調理方法を教えていただいたり味見をしていただく。手打ちうどん、手作りおやつなどいっしょに作っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由に面会でき、好きな時に外出・外泊もできる。遠方の家族は居室に宿泊できるようにしている。ご家族来訪時は、施設での様子を伝えたり、ご家族に入居前のことを伺い情報を共有している。イベントがあるときはお知らせし参加していただいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けず、いつでも面会できるようにし、居室等でゆっくり過ごせるよう支援している。ご家族と一緒に自宅や墓参りや法事に出かけている。希望者はかかりつけ医を変えずに、継続して受診できるようにしている。馴染みの店に買い物に行ったり、散歩をしながら町を懐かしんでいる	面会時間は決めていないため、利用者の友人や知人、家族等はいつでも居室でゆっくり面会ができるようになっている。 散歩時に利用者の自宅に寄ったり、近くのお寺で行われる「十六夜」に参加するほか、かつて行った河川や海で釣りができるよう支援している。 職員は利用者が出す年賀状や手紙の代筆、投函などを支援し、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を調整し会話ができるようにしている。仲の良い方同士で散歩や買い物に行く。1階2階合同でイベントやレクリエーションを行なうこともあり、楽しみを共有しながら交流を図っている。職員が間に入り会話ができるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々電話や手紙をくださったり訪問してくださる家族もあり情報交換している。相談があればいつでも対応できるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	受け持ちを中心に本人の希望を聞き意向を把握している 困難な場合は会話が可能だった頃の言動、生活歴、ご家族からの情報をヒントに本人本位に検討している	職員は利用者との日々の関わりの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 囲碁の好きな利用者の相手をするためのボランティアを探したり、歌が好きな利用者の家族等にCDやカセットテープを届けてもらったりしている。 思いの表出が困難な利用者の場合は、日常の仕草や表情から利用者本位に検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメント表、ご本人・ご家族等から今までの生活環境を見聞きし、記録してサービスにつなげている	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に沿って記入する介護記録と、バイタルサイン、食事量、排泄、睡眠等の記録により把握に努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにより課題を抽出する。ご本人・ご家族の希望を聞き、受け持ち、計画作成担当で原案を作成、カンファレンスで職員の意見を聞き介護計画を作成している。 6ヶ月に一度、モニタリングを行っている。また、状態変化時は随時話し合い、計画の見直しを行なう	介護計画は利用者や家族等の要望をもとに、職員会議やカンファレンスで話し合い、計画作成担当者が作成している。 長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月とし、モニタリングを6ヶ月毎に行い、心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人に受け持ちがいるが、毎日の日勤者で当日の担当者を決め、介護計画に沿ったケアを行ない、記録している。申し送りや連絡帳で情報共有しながらケアを実践している。必要に応じカンファレンスを行ない計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望で買い物に出かけたり、ご家族に代わって通院の介助をしている。歯科医の往診、理美容を利用できる。雨の日でも、運動ができるようエアロバイクが置いてある。施設内にジュースの自動販売機を設置し自由に購入できる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署、警察署に協力してもらっている。通院時に介護タクシー、買い物時も近隣のタクシーを利用する。美容師、歯科医師等が定期的に訪問してくれる。近隣の公園、図書館、商店、飲食店を利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望でかかりつけを決定している。定期的な通院のほか、病状に応じ、かかりつけの医師へ相談し適切な医療が受けられるよう支援している 協力病院の医師によるインフルエンザの予防接種を施設内で全員受けている	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本とし、家族等の依頼がある場合には職員が付き添っているほか、協力医療機関への受診を支援している。 協力医療機関の訪問歯科診療が毎週あり、口腔ケアや治療の支援をしている。 受診結果は家族等から報告を得て記録に残し、職員間で共有している。 職員が付き添った場合の家族等への結果報告は、緊急時を除き請求書送付時に同封している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる症状や、処置内容などにすぐ看護師に報告、相談できる体制が24時間整っている。必要に応じ、病院受診するなどの対応をしている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に面会に行き、利用者様の心身の状態を把握できるようにしている。病院の医師、看護師と、密に連絡をとり情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」を作成し、家族より同意をいただいている。終末期の状態、過ごし方は個々により様々であるので、その都度十分話し合いながら進めていくことを家族と理解しあっている職員は終末期ケアについて研修を行ない、理解を深めている	契約時に「重度化した場合における対応に係わる指針」及び「看取りに関する指針」を説明し、利用者や家族等の同意を得ている。協力医療機関との24時間連携体制は整っているが、看取りのマニュアルを作成して内部研修を行うまでには至っていない。	看取りのマニュアルを作成して内部研修を行い、利用者や家族等、職員が不安なく支援できるよう整備することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、施設内で応急手当救命講習を開催し、全員が交代で受講している。対応マニュアルを理解し対応できるよう備え、施設内研修を行なっている。事故発生に備えてAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いで総合消防訓練を実施し指導を受けている。近隣住民にも訓練参加の案内を出している。毎月の自主防災訓練と定期的な研修を実施している。水害ハザードマップを掲示し避難経路を確認できるようにしている。水や非常食を備蓄している。	年2回消防署立ち会いの消防訓練のほか、夜間や地震を想定した事業所独自の避難訓練を毎月実施している。訓練後は実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題について職員で話し合い、次回の訓練に活かしている。地域住民の参加を呼びかけているが参加が得られていない。災害に備え、飲料水や缶詰、米などを一覧表を作成して定期的に点検しながら備蓄している。	非難訓練に地域住民の参加が得られるよう、運営推進会議で呼びかけたり、事業所の行事に近隣住民を招待するなど、工夫することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行ない、プライバシーに配慮した言葉かけや人格を尊重した対応をしている個人記録へは他利用者の名前をイニシャルで記載している。記録物は外部に見えないように事務室に保管している	管理者は接遇に関する内部研修を行い、職員が利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。 個人記録は利用者の名前をイニシャルで記載し、各ユニットの鍵のかかる事務室に保管して情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にわかりやすい言葉、説明を行い自己決定してもらったり納得できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベントのない日の余暇の過ごし方は利用者様と相談して決める。希望を伝えられない利用者様には昔からの趣味が継続できるよう支援し、体調を確認しながら休息もできるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際、利用者様と一緒に好きな服を選んでいる。服装の乱れはさりげなく言葉かけし整えている。理髪、毛染めなどはご本人の意向に添って対応している。買い物に行き、洋服や化粧品を選んで購入している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、下膳、片付けなどできる方と一緒にこなっている。料理が好きだった方から調理方法を教えていただいている。誕生日の希望食や外食、出前、イベント食等、食事を楽しめるようにしている。うどん作り、おやつ作りを行なう。菜園で収穫した野菜を使った料理を提供している	宅配業者が作成した献立の食材が届き、自家菜園で収穫した季節の野菜などを取り入れて職員が調理している。 季節に応じた行事食のほか、誕生日の希望食や外食、出前などを取り入れ、食事が楽しめるよう支援している。 職員は利用者と同じテーブルに着き、同じ食事を食事介助や声かけをしながら摂っている。 利用者は職員の見守りのもと、野菜の下ごしらえや盛りつけ、下膳、食器拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算した献立になっている。水分量を毎日チェックしている。毎月、体重測定を行ない、食事量を調整している。普通食、粥食の提供や好き嫌いを把握し食べられないものは代替品を提供したり、野菜が苦手な方には野菜ジュースを提供している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方には歯みがきを、また口腔ケアを介助にて実施している。口腔内の状態も随時確認している。週1回、歯科医師、衛生士による歯科検診、口腔ケアが行なわれている	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に排泄時間、回数がわかるように記録でき排泄パターン把握する。介助が必要な利用者様の排泄のサインを見逃さないようにしている。訴えのない利用者様でも排泄パターンを見て誘導し、できる限りトイレやポータブルトイレで排泄できるようにしている	職員は排泄記録をもとに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら利用者のサインを察知し、トイレ誘導や声かけを行い、排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間はポータブルトイレを使用したり、車いすでトイレ誘導をすることで、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。 退院後におむつを使用していたが、職員の誘導でトイレでの排泄が可能となった利用者がいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある方には、乳製品やオリゴ糖、野菜ジュースを摂取していただくなど個々に合わせた対応をしている。水分を多く摂ったり体操、散歩など体を動かすよう支援している。医師と相談して下剤を処方、調整している利用者様もいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夕方から入浴していただく。隔日の入浴になっているが発汗の多い時や希望があればいつでも入浴できる。入浴時間、順番、湯温など出来るだけ希望に合わせて一人ずつゆっくり入浴できるよう支援している	2日に1度夕方からの入浴を基本としているが、夏季などは利用者の希望で何時でも入浴ができるよう支援している。 浴槽にジャグジーを設置したり、季節によって柚子を入れるなど、入浴が楽しめるよう支援している。 入浴を拒む利用者には、職員を替えて声かけをしたり、トイレのタイミングに合わせるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間について記録をしており、状況に合わせて昼寝の支援をしている 消灯時間を決めていない 今までの生活習慣を把握し、自宅で使っていたベッドや畳に布団を敷いて休んでいただいている 寝具類を清潔にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルと薬袋で内服薬の内容が確認できるようになっており、用法・用量について理解している。チェック表を用い、飲み忘れや間違いがないよう確認している。 服薬時、後の変化について確認し、異常があるときは報告、対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の聴き取りで把握し、好まれるもの、意欲的にできるものを確認し支援している。家事や針仕事、将棋、手芸、歌、カメラ(写真)、雑誌を買いに行くなど支援している。パッチワークでバックやクッションを作り部屋に飾ったり、家族にプレゼントし喜ばれている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、日光浴、近隣への買い物などの外出は日常的に行なっている。季節に合わせて花見、花火、家族会、外食などの外出の機会を作っている。希望者で釣り、ホームセンターやデパートへ出かける。ご家族との外出も支援している。屋外でも自由に歩けるよう日頃から転倒予防体操をしたり、歩く機会を作り下肢筋力の低下予防をしている	事業所周辺や近くの公園、神社、図書館などへ散歩に出かけるほか、季節に合わせた年間計画を立て、花見や花火見物、外食、近隣のホテルで行われる家族会に出かけ、利用者が外気に触れながら季節を感じられるよう支援している。他施設で行われるバンド演奏や日本舞踊に招かれ、全員で見学に出かけたり、希望を取ってプラネタリウムやひたち海浜公園探索、釣りなどのほか、時には家族等とも外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、管理できる程度の金額を所持していただく。近隣の商店での買い物や施設内の自動販売機でジュースを自由に購入している。現金を管理できない方には、施設で管理し、定期的に少額ずつ渡したり、買い物したいときに渡すなど必要に応じ支援している	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様は自由にご家族等と電話のやり取りをしている。希望時にご家族へ電話したり、取次ぎを支援している。全員がご家族等に年賀状を出せるよう支援している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や洗面所、玄関に季節の花を飾る。花壇や菜園の野菜を眺め季節を感じていただき成長を楽しみにしている。食堂内の日めくりカレンダーで今を知ることができる。冬は和室に炬燵を用意し、トイレにヒーターをつける室温や採光を調整し、冬は加湿器を使用し乾燥を防ぐ。施設内は掃除を徹底し清潔な環境で過ごせるようにしている。施設内にBGMを流している	居間兼食堂は明るく清潔に保たれ、温度管理により快適に過ごせるよう配慮されているほか、窓から花壇や自家菜園の野菜を眺めながら季節を感じられる空間となっている。利用者の習字作品や行事の写真などが飾られ、和やかな雰囲気となっており、一角には畳みのスペースを設け、冬は炬燵を用意して利用者がパッチワークを楽しんだり、昼寝をして寛げるようになっている。廊下にはトレーニングマシンやオルガンを配置し、利用者が自由に思い思いの時間を過ごせるよう配慮されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室、玄関の椅子、サンルーム等、好きな場所で過ごすことができる	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具や寝具などすべて持ち込みで、ご本人の使っていたものや写真など思い出の品を置いていただいている。過ごしやすいように配置もご本人とご家族にまかせている。居室ではテレビを観たり、趣味のことは行なったりゆったりと過ごしている	居室にはエアコンとクローゼットが備えられている。 利用者は家族等と相談しながらベッドや寝具、カーテン、整理筆筒、仏壇、テレビ、椅子などを自由に持ち込んでいるほか、利用者の習字や折り紙などの手作りの作品や家族等の写真などを飾り、窓際に干し柿をつるすなど、思い思いに居心地良く暮らせるように工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室に「ゆ」の暖簾をかけトイレのドアの色を変え場所がわかるようにしている。必要に応じ「トイレ」と表示している。居室の扉には花の絵が付いており自分の居室が確認できる。居室、トイレ等に呼び出しボタンがある。廊下の手すりを使用し自立して歩行できる。玄関の椅子に座って靴を履きかえられる	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム久慈浜

作成日 平成28年4月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	やむを得ず身体拘束をする場合の、経過観察記録や再検討記録がない	やむを得ず身体拘束する場合の体制作りをする	身体拘束経過観察記録の作成 再検討記録の作成	平成28年12月
2	6	利用者・家族等が普段言いにくい意見や要望を吸い上げるためのアンケートの実施を行っていない	利用者・家族等の意見を運営に反映する	家族に無記名のアンケートの実施	平成28年12月
3	12	看取りのマニュアルがない	看取りに対し、利用者・家族等に職員が不安なく支援できるように体制を整える	看取りのマニュアルの作成 看取りの内部研修の実施	平成29年9月
4	13	避難訓練に地域住民の参加がない	災害時に地域住民との連携、協力が得られるようにする	避難訓練参加の呼びかけ 地域の訓練への参加 グループホームを知ってもらうための働きかけをする	平成29年9月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。